

7

水道はこれからどうなるの？

大規模な施設更新などが見込まれています

浄水場の更新

札幌市には、5か所の浄水場がありますが、その多くが昭和40～50年代に整備されたもので老朽化が進んでいます。

適切な時期に効率的・効果的に更新していく必要があります。

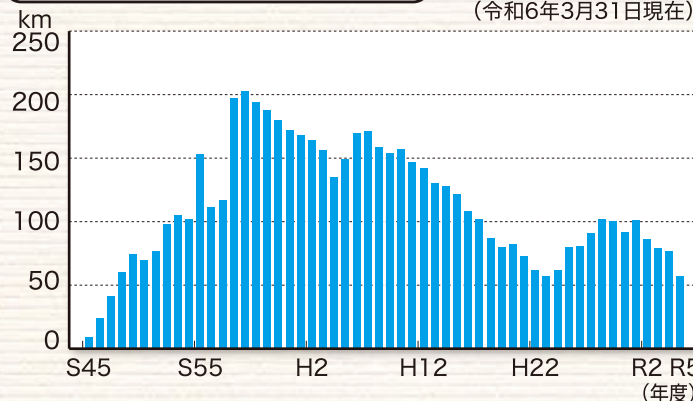
札幌市の浄水場

(令和6年3月31日現在)

	藻岩浄水場	白川浄水場	西野浄水場	宮町浄水場	定山溪浄水場
建設年度	昭和12年	昭和46年	昭和46年	昭和53年	昭和58年
改修年度	平成14年	—	令和4年	平成26年	—
建設または改修からの経過年数	21年	52年	1年	9年	40年
給水能力	129,000m ³ /日	542,000m ³ /日	14,600m ³ /日	5,600m ³ /日	8,400m ³ /日

布設した年度別の配水管の長さ

(令和6年3月31日現在)



配水管の更新

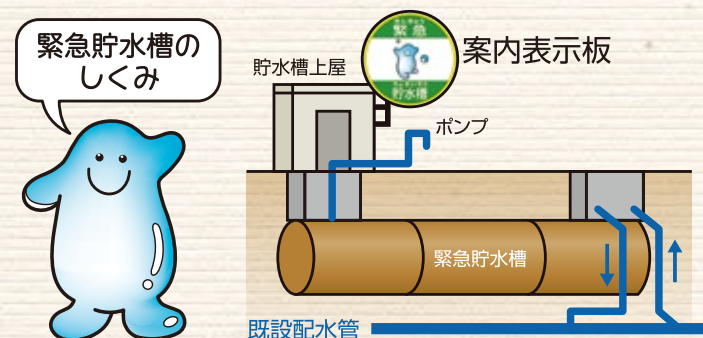
札幌市に布設されている約6,000km(札幌からインドの距離に相当)の配水管は、昭和40年代以降に集中的に整備されたもので、今後、次々と更新時期(法定耐用年数40年)を迎えます。

経年化により劣化した配水管が増えると、漏水事故が増加し、断水等により市民生活へ影響を及ぼす可能性が高まります。水道局では、将来にわたり安定して水道水をお届けするために、計画的に配水管を更新しています。

災害対策

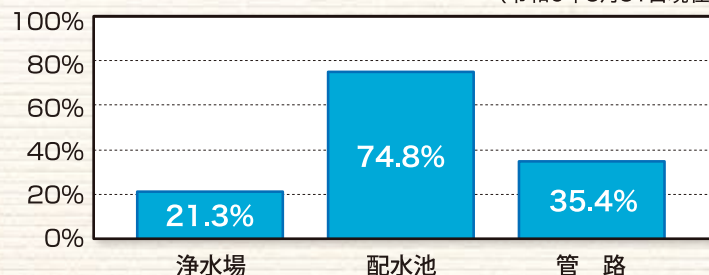
札幌市では、これまでも水道施設の耐震化に取り組んできていますが、決して十分な状況とはなっていません。

このため、主要な施設を優先して、耐震化を進めていく必要があります。



札幌市の水道施設の耐震化率

(令和6年3月31日現在)



災害が発生した場合に備え、水道局庁舎、学校、公園に緊急貯水槽を設置するなどの対策をしており、緊急時にはこれらの施設から、必要最小限の飲料水を給水することができます。

今後も水道施設の耐震化に取り組み、さらに災害に強い体制づくりを進める必要があります。



長期的な視点で事業に取り組みます

期待していますよ！



長期的な視点で事業運営に取り組んでいきます

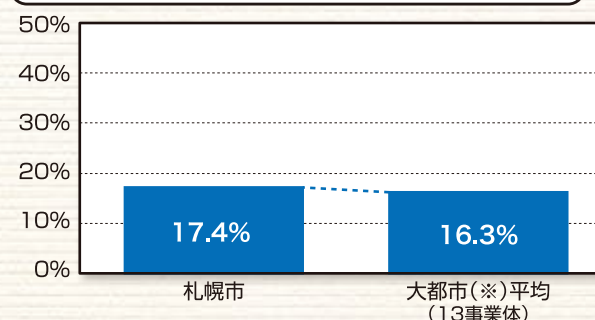
財政状況

札幌市は、他の大都市に比べると水道事業の歴史は浅く、昭和40～50年代の人口が急増した時期に集中的に施設の整備を行いました。

この整備を行うために多額の資金の借入れを行ったことから、借入金への依存度が高い財政状況となりました。

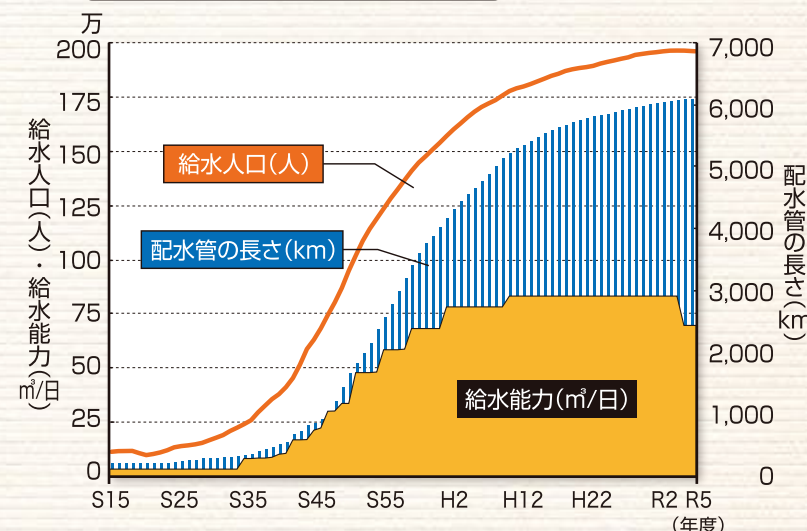
現在でも借入金を返済する負担は、他の大都市に比べて大きくなっています。

料金収入に対する借入金の元利償還金の割合
(令和5年度 各都市水道事業会計決算)



(※)大都市=東京都+計画給水人口が100万人以上の政令指定都市

給水人口・給水能力・配水管の長さ



こうした借入金の元金と利息の返済(元利償還金)は、水道事業の収入が減少したからといって簡単に削減できない固定的な支出です。

今後、人口の減少などに伴い給水収益も徐々に落ち込むことが見込まれるなかで、安定した事業運営を行うためには、過度な借入れを行わないなど、借入額を適正に管理することが必要です。

今後の事業運営

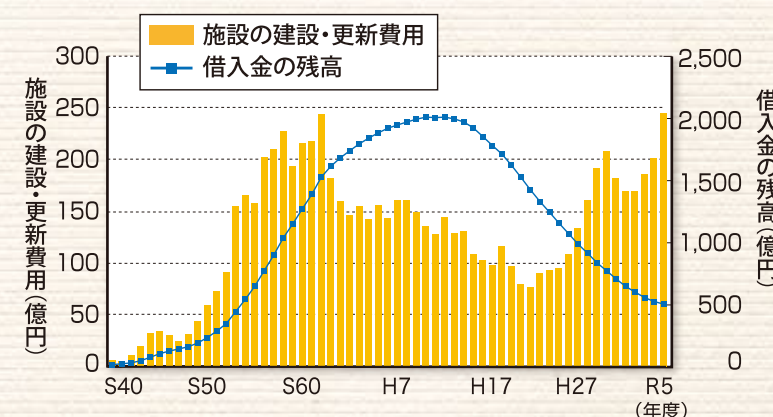
今後の大規模な施設の更新には、多くの資金が必要となります。

そのため、引き続き経費節減のほか、適正な企業債管理を行うなど、将来に向けて必要な財源の確保を図る必要があります。

水道事業は、財政の状況に配慮しながら計画的に施設の整備を進めるなど、長い目で見た安定的な運営が求められています。

今後とも、安全でおいしい水をいつまでもお届けできるよう、「長期的な視点」で事業の運営に取り組んでいきます。

昭和40年度以降の施設の建設・更新費用と借入金の残高



多額の事業費をかけて集中的に整備した施設が、今後、次々と更新時期を迎えます